

溶連菌感染症

ヒトの連鎖球菌感染症においてその大部分を占めるものは、β溶血を示すA群溶血性連鎖球菌です。溶連菌は咽頭・扁桃炎や皮膚化膿症を起こします。溶連菌感染症は、それ自体は怖いものではありませんが、治療が不充分だと余病を発症してしまうこともあります。指示にしたがって十分治療を受けてください。

原因

A 群β溶血性レンサ球菌による

感染経路

飛沫感染によって口や鼻からはいたり、皮膚からの接触感染によってうつります。人に感染する期間は発病してから、無治療では2～3週間です。感受性のある抗生剤の治療を受けると2日で人にうつさなくなります。

潜伏期間

溶連菌性咽頭炎では2日～5日

症状

乳幼児（6ヶ月～3才未満）

症状は軽く、鼻汁を伴う鼻咽頭炎が2～4週間の長期間にわたって続きます。中耳炎を合併しやすく、幼児では頸部リンパ節腫脹を認めます。

年長児（3～4歳～12歳）：溶連菌性咽頭扁桃炎

発病は急激で、39～40℃の高熱、咽頭痛を訴えます。咽頭は暗赤色に発赤・腫脹し、口蓋の点状紅斑および点状出血斑を認めます。扁桃は発赤・腫脹し、膿栓・膿苔を認めます。前頸部リンパ節は腫脹し圧痛があります。菌毒素による腹痛と嘔吐を伴うことがあります。全経過は3～5日です。

年長児型＋猩紅熱（しょうこう熱）（3～4歳～12歳）

突然、高熱・頭痛・咽頭痛の急性上気道炎の症状で発症します。1～3日後に、頬・腋窩・大腿内側・臀部に小斑点が散在します。しだいに鮮紅色の密集した発疹となり、全身に広がります。発疹はわずかにかゆみも伴います。口唇周囲に発疹は少なく、口囲蒼白と呼ばれます。回復期には、腰部・臀部では粗糠様に、手のひら・足の裏では膜様に皮がむけます。全経過は2～3週間です。舌は初期には白色舌ですが、2～3日で舌乳頭が著明に肥大してイチゴ舌になります。猩紅熱発疹は、発赤毒素に対する過敏反応と考えられています。患者がこの毒素に対する抗体を有する場合は発疹を生じません。

その他：皮膚化膿症、頸部リンパ節炎、扁桃周囲膿瘍、咽後膿瘍、中耳炎、副鼻腔炎などの化膿症を起こすことがあります。

治療

- *感受性のある抗生剤を医師の指示通り内服してください。
- *兄弟の発症予防する場合は、3歳～17歳の家族にも抗生剤の投与を行なうことがあります。
- *皮膚のかゆみが強いときには、かゆみ止めの内服を行ないます。

家庭看護

この間、熱のあるときは水分を十分取らし、熱がなく元気が良ければ入浴も良いです。

抗生剤の予防投薬をしない場合は、コップの共用などは避けましょう。

隔離期間

内服開始後2日間

余病発見のために

溶連菌の毒素によって、発病2～3週後にみられるリウマチ熱、急性糸球体腎炎などがあり、後者が重大です。そのため、発病後2週間目と3週間目の2回、尿検査を必ず受けて腎炎の発病の有無を確かめてください。

- 1回目：2週間目（ / ）尿検査・咽頭細菌培養
- 2回目：3週間目（ / ）尿検査